

〈研究論文〉

「資料の鉄人」

—インターネット経済情報・資料の探索と利用—

1998年1月

野澤正徳

(京都大学大学院経済学研究科・経済学部)

1. はじめに—「資料の鉄人」をめざそう

「検索の鉄人」コンテスト、というのがあるのをご存じですか。そう、インターネット上の情報を検索する能力と早さを競うコンテストです。NTT系のインターネット・ネットワーク、「infosphere」が後援しているコンテストで、第1回は1997年11月に行われ、関 祐司さんという方が第1位の栄誉に輝き、賞金100万円をもらいました。

検索の鉄人第1位になるのは至難の業ですから、別に、ならなくてもかまいません。

大切なことは、経済情報・統計情報（＝経済資料）の極めて多くが、インターネットの上で提供されるようになったことを知ることです。この1年位の間、雨後の竹の子のように、いろいろなホームページが表示され、そこから多くの世界の経済情報・統計情報に高速に、容易にアクセスし、それを入手し、利用することができるようになりました。この状況を認識せず、その情報を的確に利用することができないようでは、経済学、経営学、その他の社会科学では、時代遅れの非効率におちいり、立ち遅れてしまうのは明らかです。

そこで、ここでは、世界の経済情報・統計情報を上手に、効率的に利用できるように、無数にあるホームページの中から、主要な、代表的なホームページを選抜して紹介し（リンク集）、それらを入り口として、世界の経済情報の大海に乗り出して行けるように、手助けをしたいと思います。ただ、インターネットやホームページは、文字通り、日進月歩で進化していますから、この試みもあつという間に古くなり、新しい作業が必要になることにもご留意下さい。

まず、検索エンジンについて説明し、その後で、便利なリンク集と、統計ファイルの種類について、ふれることにします。

(この文では、手元のパソコンがインターネットに接続し、WWW のホームページが見られる状態にあることを、前提としています。接続の仕方については、別の入門書を見るか、知っている人に聞か、お願いします。)

2. 検索エンジン

インターネットの検索エンジン（検索装置）を使うと、自分の必要な情報、資料を含む WWW ホームページへのリンクを簡単に見つけることができます。

気軽にこれを使って、必要な情報、資料を入手しましょう。

少し慣れ、自由に日本・世界の資料を見つけられる人を「資料の鉄人」と呼びます。



謹賀新年

目指せ！「検索の鉄人」

で検索のテクニックを競う日本初のコンテスト「検索の鉄人」…… 決定！鉄人は聞

goo は検索の鉄人を応援しています。

1) 日本の検索エンジン

検索エンジンには、2 種類あります。

①自動的に収集されたホームページの検索

自動的に世界のホームページを巡回し、収集したホームページ上のテキストについての検索を行うエンジン。

〈goo〉(http://www.goo.ne.jp/) は、この型の代表であり、効率よく利用できます。思いついたキーワードを入力すると、そのキーワードを含んでいるホームページの全てを表示してくれます。

goo

無料!!! PhotoVista
ダウンロード 最高の300万/10万画素Vista

gooセレクション ヘルプ

ヒント:「検索先設定」は海外のサイトを選択し、対象エリアを指定します。

キーワード入力 資料の鉄人

検索設定 すべての語を含む ▾

日本語のサイト ▾

gooの使い方

表示設定 100語程度 ▾

10件 ▾

→ 検索開始

追加機能

→ 追加検索

さらに語句を絞り込み追加検索ができます。

→ 日付検索

ページが制作、更新された日時を指定し検索ができます。

→ 検索先設定

検索先をロケーションごとに指定し検索ができます。

→ データタイプ

データタイプを指定し検索ができます。

検索条件の呼び出し

検索条件の保存

印刷/複製

メール

Gsquare

Powered by Inktomi



POWERED BY InfoBee



HOSTED BY Web ARENA

Microsoft Internet Explorer



検索の鉄人



Yahoo!新人賞 2位入賞

②登録されたホームページについての検索

希望者が登録したホームページ上のテキストについて検索を行うエンジン。

〈(http://www.yahoo.co.jp/)〉は、この型の代表で、最も古く有名です。登録されたもののしか検索できないので、範囲は狭いが、ホームページが体系的に分類・整理されているという長所があります。

(詳細は、例えば、〈『週刊ダイヤモンド』1998年1月10日号、特集：超情報

源2500)を参照して下さい。)

2) アメリカ等の検索エンジン

〈YAHOO〉 (<http://www.yahoo.com/>)

〈Alta Vista〉 (<http://www.altavista.com/>)

他にも多くの検索エンジンがありますから、それらの特徴を知り、目的に応じた検索エンジンを用いて、情報を入手しましょう。

最近では、ホームページの中に、検索のフォーム(枠組)を備えているものが増加しており、検索が便利になっています。

3. 日本の経済情報・統計情報

日本の経済情報・統計情報が得られるホームページについては、ご存じの方が多いと思いますが、念のため、最も代表的なリンク先を掲げておきます。

1) 企業・産業

〈Yahoo! 企業情報〉 (<http://profile.yahoo.co.jp/>)

〈Yahoo! 企業別決算・財務情報〉 ([http://www.yahoo.co.jp/Business and Economy/Markets Investments/Corporate Reports/](http://www.yahoo.co.jp/Business_and_Economy/Markets_Investments/Corporate_Reports/))

〈Yahoo! ファイナンス〉 (<http://quote.yahoo.co.jp/>)

〈nihon.net 企業インデックス〉 (<http://www.nihon.net/combbs/>)

〈帝国データバンク倒産情報〉 (<http://www.tdb.co.jp/data/jouhou.html>)

〈シンクタンク情報〉 (<http://www.nira.go.jp/icj/>)

2) 地域

〈Yahoo! 地域情報〉 (<http://www.yahoo.co.jp/Regional/>)

〈Nippon-Net 地方自治情報センター〉 (<http://nippon-net.ne.jp/>)

〈地域発見〉 (http://search.nippon-net.ne.jp/search_mha.html)

3) 官公庁

〈首相官邸〉 (<http://www.kantei.go.jp/>)

〈官公庁リンク〉 (<http://www.kantei.go.jp/jp/server-j.html>)

〈経済企画庁〉 (<http://www.epa.go.jp/>)

4) 大学

〈国立大学・高専へのリンク〉 (<http://monbu.go.jp/jmlink.html>)

〈大学・検索〉 (<http://www.yahoo.co.jp/Education/Universities/>)

〈世界の大学の経済学部・経済研究所〉 (<http://www.er.uqam.ca/nobel/r14160/economics/>)

5) 図書館

〈学術情報センター〉 (<http://www.nacsis.go.jp/>)

〈図書館・検索〉 (<http://www.yahoo.co.jp/Reference/Libraries/>)

〈デジタル図書館〉 (<http://www.dl.ulis.ac.jp/dlw J.html>)

6) 統計

〈総務庁統計局〉 (<http://www.stat.go.jp/>)

〈経済企画庁・経済研究所〉 (<http://www.epa.go.jp/j-j/eri/manu.html>)

〈日本銀行〉 (<http://www.boj.or.jp/>)

〈日経データバンク〉 (<http://www.nikkei.co.jp/db/>)

〈東洋経済データバンク〉 (<http://www.dediagalaxy.co.jp/toyokeizai/>)

4. アメリカ・ヨーロッパ・国際機関の経済情報・統計情報

1 アメリカ、ヨーロッパの経済情報・統計情報にアクセスするための、最も代表的な入り口は、次のホームページです。

1) WWW Virtual Library: Economics (<http://www.hkkk.fi/EconVLib.html/>)

このホームページには、次の二つのホームページへのリンクが横に並んでいます。

* RFE : Resources for Economists on the Internet

(<http://wueconb.wustl.edu/EconFAQ/EconFAQ.html/>)

* WebEc : WWW Resources in Economics

(<http://www.helsinki.fi/WebEc/>)

それぞれ、日本の日の丸の旗があつて、そこをクリックすると、日本の一橋大学にあるミラーサイト（鏡のようにオリジナルの情報を反映、伝達している中継点）につながるようになっています。

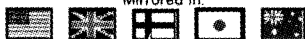


WWW Virtual Library: Economics

RFE

Resources for Economists on the Internet

Mirrored in:



Bill Goffe
Dept. of Economics and International Business
University of Southern Mississippi
USA

WebEc

WWW Resources in Economics

Mirrored in:



Lauri Saarinen
Center for Innovative Education
Helsinki School of Economics and Business Administration
Finland

2) 〈RFE〉

まず、〈RFE〉をクリックしますと、アメリカ・南ミシシッピ大学の B.Goffe 氏が作った、多くの経済情報ホームページへのリンク集にジャンプします。

このリンク集は、経済情報のリンク集で最も古い、代表的なものといっているでしょう。ただ、少し更新が遅れているのは（最新版1997年5月）残念です。

その左上の〈Contents〉をクリックしますと、目次が出ます。

①経済統計

〈RFE〉目次の中の項目〈US.Macro and Regional Data〉の下には、多くの経済統計のホームページが並んでいて、ここから主要な統計情報が入手（プリントに印刷、または、ファイルに保存）できます。重要なホームページを簡単に紹介しますと、

〈Economic Statistic Briefing Room〉 (<http://www.whitehouse.gov/fsbr/esbr.html>) は、ホワイトハウスの統計サービス室で、ここから、生産、販売、価格、雇用、失業等、多くの経済統計の速報とグラフが見られたり、それぞれの統計機関のホームページにジャンプしたりできます。

〈US. Department of Commerce (STAT-USA)〉 (<http://stat-usa.gov/>) は、アメリカ商務省の統計局のホームページで、基本的な統計がそろっていますが、有料サービス（1年150\$, 3ヶ月50\$）になっています。画面から申込用

紙をプリントし、名前、住所と利用期間、クレジットカード番号を記入して、FAXで送ると、1週間ほどして、登録番号（ID）とパスワードが送られてきます。その後、画面に出ている統計の名前をクリックすると、IDとパスワードを聞いてきますから、それらを入力すれば、めざす統計のページにアクセスでき、統計表を見たり、ファイル（CSV形式）に保存したり、プリントしたりできます。国民所得統計の掲載されている、商務省の“Survey of Current Business”の各号の全文を美しい印刷（PDF形式）で手に入れることもできます。

〈Bureau of Labor Statistics〉（<http://stats.bls.gov/>）は、労働省の労働統計局のホームページで、労働、雇用、失業等の統計が利用でき、無料です。画面に、ほしい統計の特徴を入力すると、その統計のページに進めます。

〈US.Census Bureau〉（<http://census.gov/>）は、センサス局のホームページで、人口センサスに関する統計を提供しています。一部は、登録制です。

その他、多くの統計のホームページがあります。

②経済文献ビブリオグラフィ（書誌）

アメリカ関連の経済文献ビブリオグラフィのうちで最も代表的なものは、*Journal of Economic Literature*で、アメリカ経済学会（AES）が編集しています。これは、本、ジャーナル、学位論文、書評をふくんでいますが、利用するためには、登録が必要です。

〈RFE〉ホームページの、〈Bibliographical Databases and Information〉の下に〈Journal of Economic Literature and EconLit（JEL）〉（<http://www.econlit.org/>）をクリックすると、〈Econlit〉のホームページが開き、詳しい説明を見ることができます。

③ワーキングペーパー

〈REF〉の中の〈EconWPA（Economics Working Paper Archive）〉（<http://econwpa.wustl.edu/wpawelcome.html>）は、ワシントン大学経済学部が作っているホームページ（ミラーサイトが一橋大学にある）で、多くのワーキングペーパーを紹介・収録しています。ここから、検索によって、関心のあるワーキングペーパーを探し、全文を表示することもできます（PDF形式）。

④学会、会議の情報

学会、会議の情報は、〈RFE〉の〈Information about Conferences〉の下に、近く予定されているものについて、その日程や研究発表者の募集が出ています。

3) 〈WebEc〉

次に、〈WebEc〉をクリックしますと、ヘルシンキ大学経済学部の Lauri Saarinen 氏の作成する 〈WebEc〉 ホームページに接続できます。

これは、元は、Bill Goffe 氏の 〈RFE〉に基づいて、その情報を経済学のカテゴリー（専門分野）毎に分類したのですが、最近では、更新の回数も多く（3ヶ月毎：最新版1997年11月、次回1998年1月）、カテゴリー別分類が便利なので、よく使われるようになっています。

〈WebEc〉の目次には、次のような特徴があります。

①カテゴリー別分類

カテゴリー別分類によって、Macroeconomics, Microeconomics, International Economics などのテーマに分かれ、それぞれ多くの情報を含んでいます。

例えば、〈Macroeconomics〉をクリックしますと、Macroeconomics のページがあらわれ、そこに Real Business Cycle Theory とか、ポストケインズ思想インターネット書庫とかいうリンクが出てきて、興味深く感じます。また、〈Mathematical and Quantitative Methods〉という項目からは、別の〈Econometric Resources on the Internet〉というページに飛びますが、これはこの専門分野にとって、たいへん有益なページです。

②出版

〈Publishing〉という項目から、〈Publishing Houses〉（出版社）へ飛ぶことができます。ここには、世界の経済学に関連する主要な出版社がアルファベット順に並んでいます。Blackwell, Elsevier, MacGraw-Hill などの大きな出版社のホームページに行くことができます。

③学術誌（学会誌）

〈WebEc〉ホームページから、〈List of Economics Journals〉をクリックしますと、経済学に関連する学術誌、学会誌の並ぶページに飛びます。

④経営学ホームページ

〈BizEc〉 (<http://www.hkkk.fi/BizEc/>) は、経営学 (Business Administration) の情報を集めたホームページで、〈WebEc〉を作成したのと同じ Saarinen 氏が作成しています。ここから、世界の各種の経営情報を、三つの期間、つまり、デイリー、ウィークリーまたはマンスリー、長期、について入手できるホームページに移ることができますので、経営情報の探索と利用にとって、たいへん有益です。

2 ヨーロッパ

① EU

〈EU〉ホームページ (<http://europa.eu.int/>) は、青色の美しい画面に、Welcome が11カ国語で書かれていて、それをクリックすると、各国語の説明を見ることができます。

② EC 統計局

〈EUROSTAT〉ホームページ (<http://europa.eu.int/en/comm/eurostat/>) も、美しい画面で、英、仏、独の3カ国語の表示があります。一部の統計は綺麗なグラフで表示されますが、多くの統計は、オンラインの利用ができず、紙の出版物が紹介されるだけで、残念です。

③ 北欧

北欧の諸国には、〈北欧ハイパーリンク〉 (<http://www.spice.or.jp/~mt0711/slinks.html>) から、楽しい旅行ができます。



*Office Statistique des Communautés européennes
Notre mission est de fournir à l'Union européenne
un service d'information statistique de qualité*



3 国際機関

①国連の関連組織

〈国連〉(<http://www.un.org/>), 〈国連に関連する組織〉(<http://www.unsystem.org/>)などのホームページから、国連やその関連組織(アルファベット順, カテゴリー別)に接続できます。

② OECD

〈OECD ホームページ〉(<http://www.oecd.org/>)から、OECD 諸国の現状、刊行物、統計などについて、閲覧、入手することができます。

③その他の国際機関

〈環境に関する海外リンク集〉(<http://www.eic.or.jp/>)は、地球温暖化防止など、環境保持に関する海外組織へのリンク集です。

5. アジアの経済情報・統計情報

アジア諸地域のインターネットも、最近、急速に発展し、インターネットから多くの経済情報が得られます。国別に、代表的なリンク先のみを紹介します。

(このリンク集は、〈アジア経済研究所『ワールド・トレンド』1997年12月号, 特集: アジア研究とインターネット〉を参考にしています。この特集は貴重な情報ですから、アジア研究に関心のある方は是非これをご覧ください。)



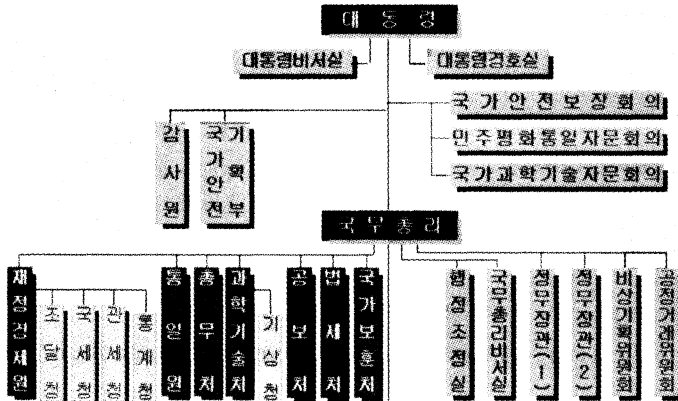
WWW.COM

WWW.COM Home Page

다가서는 정부

대한민국은 대통령중심제를 채택하고 있으며, 행정능률의 고도화를 위하여 정부의 행정조직은 "2원 14부 5처 14청"으로 구성되어 있습니다. 이것은 국민에게 먼저 다가서는 정부로서, 깨끗한 정부·튼튼한 경제·건강한 사회 그리고 통일된 조국으로의 발전을 위하여 노력하는 한국 정부의 출발점인 것입니다.

중앙행정기관



1) 中国

中国の経済情報は、次のホームページからアクセスすることができます。

ただ、中国語を表示するためには、中国語フォント（繁体字，简体字）を手またはダウンロードし，インストールし，設定しなければなりません。その方法については，下記の「上海特急」ホームページ，または，京都大学経済学部のホームページ（計算機システム関連文書）等を参照して下さい。中国語フォントの利用には，ブラウザーは，Internet Explorerの方が簡単ようです。

中国大陆では，简体字（GB）が使われますから，そのように設定して下さい。

① China Internet Information Center

〈中国国際互聯網絡新聞中心〉（<http://www.china.org.cn/indexC.html>）は，中国の公式ホームページらしく，江沢民主席の顔写真が掲げられています。国旗がなびき，地方の窓などもあって，面白いページです。

②上海特急

〈上海特急〉(<http://mwj.com/shanghai/>)には、中国企業名鑑、中国新聞・雑誌情報など、多くのリンクが示されています。

③北京オンライン

〈北京在線〉(<http://www.bol.com.cn/>)には、北京の多彩な情報源へのリンクが張られています。

④経済情報ネットワーク

〈中国経済信息网〉(<http://www.cei.gov.cn/>)は、国家信息中心（国家情報センター）が提供する経済情報ネットワークのホームページで、毎日経済情報など、多くの有用な経済情報へのリンクを掲げています。

⑤経済情報infonavi

〈信息導航〉(<http://infonavi.cei.gov.cn/>)は、経済情報ナビゲーションとして、中央政府、経済、工業、金融、ネットワーク技術、服務、文化芸術、新聞出版など、分野別に、多くのリンク集を掲げています。

⑥中国開発区

〈中国開発区の窓〉(<http://sezo.gov.cn/>)は、開発区の急速な発展を示すリンク集を含んでいます。

2) 中国香港

香港の情報は、香港行政区政府のホームページを中心として、整然と配置されています。香港では繁体字（BIG5）ですから、その設定が必要です。

①行政区政府

〈中国香港特別行政区政府資訊中心〉(<http://www.info.gov.hk/>)ホームページは、いろいろな政府部門、新聞、統計資料・数字など、各種の情報へのリンクが整然と配置されています。

②香港 WWW データベース (<http://www.cuhk.hk/hkwww.html>) は、香港中文大学が作成したリンク集で、中国系を中心とした世界のビジネス、教育、文化など、多くのリンクが掲げられています。

3) 韓国

インターネットが急速に発達し、有用な情報が入手できるようになっています。しかし、回線が細いためか、なかなか接続できない場合があります。

ただ、韓国語を表示させるためには、韓国語のフォントをダウンロードし、

インストールし、設定しなければなりません。その方法については、例えば、京都大学経済学部ホームページ（計算機システム関連文書）を見て下さい。

①中央行政機関

〈総務処〉(<http://www.gcc.go.kr/html/govern.html>) ホームページには、各部門、各地方へのリンクが示されています。英文もあります。

②統計情報システム

〈統計庁〉(<http://nso.go.kr/>) のホームページを開くと、軽やかなミュージックが流れてきます。画面は充実しており、主要な統計表の要約（html 形式）を見たり、表をダウンロードすることができます。

③現代経済社会研究院 (<http://www.cosmo.co.kr/>)

企業情報、経営指標が充実しています。複雑系とは何か、の解説もあります。しかし、英文のホームページがありません。

4) 台湾

台湾では、繁体字（BIG5）が用いられますので、その準備が必要です。

①行政院新聞局（Government Information Office）

〈新聞局〉(<http://www.gio.gov.tw/>) から、中国国情、即時新聞、電子雑誌などへのリンクが張られています。

②行政院經濟部

〈經濟部〉(<http://www.moes.gov.tw/>) から、多くの経済統計が閲覧、入手できます。（ただし、経貿統計は主計処から、gopher によって送られてきます）

③台湾学術ネットワーク

〈台湾学術網路〉(<http://www.ntu.edu.tw/TANet/>) のホームページから、政府教育部、台湾地域ネットワークを通じて、多くの大学や学校にリンクが張られています。

5) タイ

国立電子・コンピュータ技術センター

〈NECTEC〉(<http://www.nectec.or.th/>) ホームページは、タイ最大のもので、政府部門、商業組織、大学など、多くのリンクを含んでいます。タイの検索エンジンもあります。

6) シンガポール、インドネシア、フィリピン、マレーシア、インド等

これらの地域でも、情報産業とインターネットの育成が急速に進められており、有用な情報が得られるようになりました。これらについては、上記の、アジア経済研究所『ワールド・トレンド』1997年12月を参照して下さい。

6. 統計情報のファイル形式

インターネットからオンラインで得られる統計情報データには、次のようなファイルの形式があつて、取り扱いが違います。この違いを知つて、適当な手段（ツール）を用いると、簡単に、表計算ソフト（Excel, Lotus 1-2-3 など）に入力し、計算することができます。

1) csv ファイル形式（テキスト形式）

csv とは、Comma Separated Value の略で、数字と数字の間が、コンマやブラクで区切られている統計データの形式です。アメリカからオンラインで入手できる統計データには、この形式のものが多くあります。このデータを、例えば、表計算ソフト Excel に入力するためには、Excel に付属しているテキストファイル・ウィザードを用います。詳しくは、Excel のマニュアルをお読み下さい。

（入門的解説、例えば、『日経 PC21』1997年6月号、特集：インターネット情報活用講座）等も、よくわかります。）

2) html ファイル形式

ホームページに出ている統計表（table）は、そのままでは、html 形式ですから、プリントは簡単です。ファイルに保存するためには、html 形式で保存できますが、ブラウザで見ることができるだけです。もし、html の（pre, /pre）という記号で書かれていれば、テキスト部分の数字だけを切り取り・貼り付けで利用することができます。

3) xls ファイル形式

一部の統計表は、xls 形式という、そのまま Excel が立ち上がって、表になる形式で書かれています。経済企画庁などにはこの形式のデータがありますので、Excel を備えていれば、利用が簡単です。

4) pdf ファイル形式

一部の統計表は、PDF 形式という形式を使っています。この表は、Adobe 社の Acrobat Reader という画像ソフトを使って表示できます。Acrobat Reader は、Adobe 社のホームページ (<http://www.adobe.com/>) から無料で入手できます。非常に綺麗に表示・印刷されるので、以前からアメリカ、ヨーロッパでよく使われていたこの形式が、最近、日本でも増えてきました。例えば、日本銀行の統計データ・ファイルの多くはこの形式です。

7. 結び

これから、インターネット上の経済資料－経済情報・統計情報はますます増加し、経済資料といえば、基本的にインターネットで探索し、収集し、入手するものになるでしょう。この必然的な社会の傾向に取り残されないように、「資料の鉄人」をめざして、いろいろやってみましょう。

なお、上記の雑誌特集の入門解説のコピーを、京都大学経済学部調査資料室に預けておきますので、必要な方はコピーを依頼して、利用して下さい。